

第2回たつの市新宮地域小中一貫校開校準備委員会小学校区部会（西栗栖小学校）  
議事録

日時 令和6年2月29日（木）  
午後7時から  
場所 西栗栖コミュニティセンター

1 開 会

2 報 告

第2回開校準備委員会の開催結果について【資料1】

事務局から説明

<質疑応答>

（委員）

通称名、小学校名、中学校名のいずれかが思い浮かばなくても、その部分は空白で応募してもよいのか。

（事務局）

いずれかが空白でも可とする。

3 議 事

スクールバスの運行ルート（案）について【資料2】

事務局から説明

◆ 姫新線を利用して登下校する案について

<質疑応答>

（委員）

自宅から西栗栖駅までのこともあるが、播磨新宮駅から学校までのことも心配になる。

（委員）

公共交通機関を利用する時に、乗車マナーを指導していく必要がある。その指導を先生がしてくれるのかという課題がある。普段から電車に乗り慣れていない子どもには無理があるのではないか。

（事務局）

ご意見を基に教育委員会で検討させていただく。

◆ スクールバスの運行について

<質疑応答>

(委員)

時重公民館の前の道路がカーブしているので、見通しが悪く危険である。老人会で乗り降りする時は、もう少し北の場所に停めてもらっているのですが、そちらの方で考えてもらえないか。

(事務局)

検討させていただく。

(委員)

牧の地形が細長いので、できれば3か所停まってほしい。開校時点でそれぞれの停車場付近に児童がいない場合は、児童がいる停車場のみに停まってもらえば良い。開校時、牧自治会館周辺で児童がいないのであれば、牧自治会館でUターンしてもらえば良い。

(事務局)

検討させていただく。

(委員)

ウイング神姫は、コンビニの駐車場に停留所を設置しているが、公共用地ではない。

(委員)

こども園のバスは、栗町の集落内の道路を通っているが、コンビニの後ろの道路(教育委員会が示したルート案)は通っていない。示された停車場に向かうためには、田幸や栗田の児童が信号のない横断歩道を渡る必要がある。

(委員)

コンビニのところで乗車しようとする、ルートの最初に乗車する必要がある。

(委員)

基本的には今の通学方法を倣っていくようになるのではないかと。

(委員)

低学年の児童が一人で国道を渡ることは心配である。

(委員)

こども園のバスは、私有地の一部を使わせていただき、そこで乗って国道に戻っている。

(委員)

私有地の場合、誰々宅前といった名前を使用することは良いのか。

(事務局)

停車場の示し方については、例えば三差路付近という名前で示すことになるかと思

う。先ほど意見のあったルートであれば、見通しの悪い箇所からの国道への進入といった課題が解消される。いったんこの駐車場で設定させていただく。

(委員)

下校時のルートはどうなるのか。下校時は、路線バスのバス停(栗町)で降りたい。

(委員)

そうなった場合、栗町の児童が全員そこで降りてもらおうことになるのではないかと。

(事務局)

基本的には自治会では1か所としたいので、バス停で降りたいということであれば、自治会内の児童は全員そこで降りていただく。

(委員)

学童は、各地域に1か所置いてほしい。

(委員)

保護者の中には小中一貫校になって便利になる人もいれば、不便になる人もいる。保護者が佐用で勤めているにもかかわらず、小中一貫校まで迎えに行くようなことは避けてほしい。それか、小中一貫校での学童が終わったら、学童専用のバスで送ってもらうことも案としてはどうか。

(事務局)

加東市で次に開校する社学園では、西栗栖と似た状況がある。その校区から小中一貫校までの距離が13キロ程離れているが、学童は小中一貫校に1か所設置することを計画されている。たつの市では今後協議を進めていくが、仮に、西栗栖に学童を設置することになれば、下校時の駐車場には学童の場所を設定することになると考えている。

(委員)

開校以降、相坂に児童がいるならば、コミセンを駐車場に追加しておいても良いのではないかと。

(委員)

あまり駐車場を増やしすぎると最初に乗った児童が長い時間乗っておくことになってしまう。

(委員)

園児バスでもだいたい45分乗っているのだから、45分ぐらいまでなら我慢できるかと思う。

(委員)

令和7年3月には鍛冶屋の橋が復旧されるので、西栗栖駅前を駐車場にしても問題

ないかと思う。

(委員)

中学生の場合は、西栗栖駅までの間、自転車に乗れるので、バスに乗る必要もないように感じる。

(委員)

中学生の頃、自転車で相坂の峠を越えることは難しく、当時は三日月駅を利用して。ただ、そうした時に距離もあるし暗い。バスになったとしても電車であったとしても親の手がかかることには変わりはない。

(委員)

3年生の夏休み以降、部活動がなくなった時にバスに乗りたいたってもバスの容量次第となるが、一方でバスを大きくしようとする入れない道も出てくる。

(事務局)

何年先になるか分からないが、中学生が乗りたいたってもバスの容量に収まるようであれば乗ることは可能かと思われる。

(委員)

その時その時に保護者と教育委員会で協議して決めていく形になるかと思うので、今ここで決めるのも無理があるのかもしれない。

(委員)

以前は、バスを運行していたようであるが、それがなくなった経緯を教えてください。

(事務局)

市町村合併の前の話であるが、バスの車体更新時期において保護者の意見を聞きながら決定したと聞いている。

(委員)

佐用町は、JRが走っていないので基本的にバスが運行している。中学生もバスに乗って通学している。土日はバスが運行していないので、その日は保護者が送迎している。

(事務局)

中学生が姫新線で通学する場合にはこれまでどおり定期券購入の助成を考えているが、バスと姫新線の定期券購入助成のどちらも支援することは考えていない。

<事務局からの依頼内容>

開校時に中学生になる子どもの親に意見を確認していただき、次回開催時まで事務局まで報告していただきたい旨を依頼した。

## 5 閉 会